

青森県立保健大学健康科学部ディプロマ・ポリシー

青森県立保健大学健康科学部は、看護学科、理学療法学科、社会福祉学科及び栄養学科という4つの学科に加え、健康科学総合教育部門を有します。それぞれの分野で人々の健康の保持・増進をはかるための学問を教授し、そこで得た知識や技術を実践できる能力を身につけた学生に、看護学、理学療法学、社会福祉学又は栄養学の学位（学士）を付与します。

本学の目標は、ヒューマンケアを通して、人々の健康的な生活に寄与することであり、本学の理念は、学部における学問の探求や実践を通し、健康な地域社会を創造することです。この理念を達成するために、本学学生が卒業時点で身につけておくべき能力を5つ挙げました。この5つの力を育成するために構築したカリキュラムのもとで学び、所定の単位を取得した者について、本学では卒業を認定します。

1. 自らを高める力 —表現力及び主体的学習力を基礎とした自己の形成を促すための力—			
健康科学部（全学科共通）			
・自らの考えや気持ちを適切に表現し、相手に伝えることができる。 ・自律して学習を組み立て、適切に探求でき、これを自己の成長につなげることができる能力を有する。 ・ヒューマンケアを実践する人材として、自己を形成していくための基盤を有する。			
2. 現代社会を理解する力 —社会に関心を持ち、地域社会に積極的に参加して多様性を理解し、課題解決に努める力—			
健康科学部（全学科共通）			
・社会に目を向け、課題を見出し、改善に取り組むことができる。 ・ボランティア活動などの実践を通して、地域の現状や課題への理解を深めることができる。 ・グローバルな視野を持ち、異なる文化、多様な価値観やバックグラウンドを尊重し、多様性への理解を有する。			
3. 専門的知識に根差した実践力 —高度な専門的知識と技術、倫理的態度を獲得し、これを踏まえて実践できる力—			
健康科学部（全学科共通）			
・ヒューマンケアを行うために、ケアの対象とその生活についての理解を深め、ケアの目的である対象の健康を維持・回復できるよう、各々が志向する学問分野で力を発揮できる知識を持つ。 ・地域の人々の健康に関する情報を収集・分析し、良好なコミュニケーションを保ちながら相手に沿ったケア実践や教育ができる。 ・ケアの対象を支えるために必要な人権や職業倫理に関する知識を持ち、態度として体現・実践できる。			
看護学科	理学療法学科	社会福祉学科	栄養学科
・看護の対象となる人とその生活を理解し、あらゆる健康レベルに応じた看護に必要な専門的知識・技術を習得する。 ・看護の対象となる人々や地域社会と実際に関わり、有効なコミュニケーション力を活用して情報を収集・分析し、対象に応じた看護の実践や教育ができる。 ・看護の対象を支えるために必要な人権や職業倫理に関する知識を持ち、態度として体現・実践できる。	・個人とその生活環境に配慮するため、こころとからだの健康状態、心身機能、活動性、社会参加の状況を多側面から把握し、地域や対象者のニーズに応えることができるための専門的知識を有する。 ・対人関係形成のためのコミュニケーション能力を有し、理学療法の専門家としてケアを実践できる能力を持つ。 ・生命に対する深い畏敬の念と倫理観を持ち、理学療法の理念を基盤として、対象者に親身に寄り添い、専門性を科学的根拠として行動できる。	・個人と社会について専門的知識を習得し、理論と実践から成る社会福祉の構造と機能をその理念とともに理解する。地域社会の特性や課題を理解し、人々や地域のニーズを的確に把握できる。 ・生活支援に関する制度や政策を分析すること、ならびに援助技術や適用を主体的に判断できる能力を持つ。 ・人間の尊厳に対する理解と人権を尊重・擁護する倫理観を持ち、対象者の自己決定を尊重した支援を実践できる。	・栄養が、生命の維持、健康の保持・増進、疾病予防・回復・再発防止および介護の上で、どのように関与しているかを理解する。 ・食生活の改善、栄養教育、栄養補給等、栄養状態を改善するために必要な知識・技術・態度を学び、実践する能力と評価能力を持つ。 ・人の尊厳と職業倫理を理解し、管理栄養士として、対象者に寄り添った実践ができる。
4. 創造力 —獲得した知識や技術を発展的に活用できる能力—			
健康科学部（全学科共通）			
・収集した情報を分析し、解決方法を実践し、その結果を評価、フィードバックする、問題解決の過程を進めることができる。 ・物事を論理的に考え、根拠をもとに多様な観点から吟味し、自らの思考についても批判的に考えることのできる思考力（クリティカルシンキング）を持つ。 ・科学の概念や手法についての知識をもち、健康の保持・増進に関する情報を適切に獲得、理解、評価することができる。			
看護学科	理学療法学科	社会福祉学科	栄養学科
・看護過程の展開を基礎として、看護の対象となる人の健康課題の解決に取り組むことができる。 ・看護の現象を自ら探求し、柔軟な発想で論理的に考え、判断する力を持つ。 ・自らのヘルスリテラシーを活用し、対象のヘルスリテラシーを高めることに寄与できる。	・理学療法の専門性を科学的根拠として、収集した情報を統合して解釈する臨床判断能力を持ち、問題解決を図り、自ら立案した方針に基づいた実践ができる。 ・幅広い文化・教養に関心を持ち、論理的思考力、判断力、人間性に裏打ちされた創造力を有し、社会情勢の変化を背景に職域拡大が進む理学療法の新たな展開に寄与できる。 ・健康科学に有益な新たな理学療法について情報発信できるとともに、キャリア意識を身につけ自己の成長を追求することができる。	・対象者の生活の質の向上に向けて、ソーシャルワーク実践の専門的知識と技術を応用する。 ・多様な福祉課題に対応できる論理的思考と問題解決能力を持ち、地域社会で生じる新たな福祉ニーズを自ら発見し、政策について考察できる。 ・社会福祉学に寄与する知見を発信し、ソーシャルワークの発展に貢献できる。	・人間の健康の保持・増進、疾病の発症予防・重症化予防、および生活の質（Quality of Life; QOL）の向上を目指して、望ましい栄養状態・食生活の実現に向けての支援と活動を実現するため、栄養学・健康科学に関連する諸科学を踏まえた問題解決能力（情報収集力、分析力、提案力）、実践能力を駆使し、これらを発展的に社会に還元させる能力を持つ。
5. 統合的実践力 —繋がりあうことでより大きな力を発揮できる実践力—			
健康科学部（全学科共通）			
・保健・医療・福祉領域の多職種や多機関が連携・協調するために必要なコミュニケーション能力を持つ。 ・多職種からなる組織の一員としてメンバーシップを発揮し、必要時にはリーダーシップを発揮する。 ・健康的な地域の創造に向け、対象とする事象や人々を意識したチームアプローチができる実践力を持つ。			

「3. 専門的知識に根差した実践力」及び「4. 創造力」については、学科による特殊性が大きいため、区別して表しています。

DP	DP 細目		
DP 1 自らを高める力	DP 1-1	☐	自らの考えや気持ちを適切に表現し相手に伝えることができる。
	DP 1-2	☐	自律して学習を組み立て、適切に探求でき、これを自己の成長につなげることができる能力を有する。
	DP 1-3	☐	ヒューマンケアを実践する人材として、自己を形成していくための基盤を有する。
DP 2 現代社会を理解する力	DP 2-1	☐	社会に目を向け、課題を見出し、改善に取り組むことができる。
	DP 2-2	☐	ボランティア活動などの実践を通して、地域の現状や課題への理解を深めることができる。
	DP 2-3	☐	グローバルな視野を持ち、異なる文化、多様な価値観やバックグラウンドを尊重し、多様性への理解を有する。
DP 3 専門的知識に根差した実践力	DP 3-1	☐	ケアの目的である対象の健康を維持・回復できるよう、各々が志向する学問分野で力を発揮できる知識を持つ。
	DP 3-2	☐	地域の人々の健康に関する情報を収集・分析し、良好なコミュニケーションを保ちながら相手に沿ったケア実践や教育ができる。
	DP 3-3	☐	ケアの対象を支えるために必要な人権や職業倫理に関する知識を持ち、態度として体現・実践できる。
DP 4 創造力	DP 4-1	☐	収集した情報を分析し、解決方法を実践し、その結果を評価、フィードバックする、問題解決の過程を進めることができる。
	DP 4-2	☐	物事を論理的に考え、根拠をもとに多様な観点から吟味し、自らの思考についても批判的に考えることのできる思考力（クリティカルシンキング）を持つ。
	DP 4-3	☐	科学の概念や手法についての知識をもち、健康の保持・増進に関する情報を適切に獲得、理解、評価することができる。
DP 5 統合的実践力	DP 5-1	☐	保健・医療・福祉領域の多職種や多機関が連携・協調するために必要なコミュニケーション能力を持つ。
	DP 5-2	☐	多職種からなる組織の一員としてメンバーシップを発揮し、必要時にはリーダーシップを発揮する。
	DP 5-3	☐	健康的な地域の創造に向け、対象とする事象や人々を意識したチームアプローチができる実践力を持つ。